

機織り体験教室

【団体名】はたごっこ

【担当部署】教育部 学校教育課

【提案型】自由テーマ

【協働の形態】補助

1. 事業の目的

蕨伝統の綿織物文化を継承し、その知識を習得して、広く後世に伝え発展させていく。

2. 実施内容

市内全小学校で機織り体験教室を実施

対象：3年生 計518人

日程：平成26年 6月26日（木）中央小学校
12月10日（水）南小学校
12月17日（水）塚越小学校
平成27年 1月29日（木）東小学校
2月10日（火）・18日（水）北小学校
2月19日（木）西小学校
2月25日（水）中央東小学校



内容：社会科や総合的な学習の時間にて実施。初めにガイダンスをしたのち、1クラスずつ6班編成で、1班が機織り体験実技、残りの5班が機織り用の糸作りのための布裂きを行った。実技体験や蕨の織物の歴史説明等を通して、児童に郷土の伝統や織物文化の歴史を伝承した。

3. 役割分担

- (1) 団体：事業の企画・実施、各小学校との連絡調整
- (2) 市：広報

4. 事業費と主な支出内容

- (1) 事業費：総額 297,594 円（うち蕨市協働事業補助金 269,676 円）
- (2) 支出の主な内容
備品

5. 協働による効果

【はたごっこ】

前年に続いての事業だったこともあり、各校の教務主任との事前打ち合わせも比較的スムーズにできた。3年生の授業のほかにも、各校で綿花を栽培していただき、それらを製綿して1年生の国語の授業で行う「たぬきの糸車」の教材として活用することができた。また、蕨商工会議所と連携して、蕨の誇る伝統的な織物である双子織のマスコットキャラクター「ふたこちゃん」に来ていただき、双子織をPRして、児童たちに親しみをもってもらうことができた。

【学校教育課】

小学校低学年から中学年にかけての学習は、実体験を伴う学習が有効である。特に、3年生の総合的な学習の時間では、自ら体験したり、調査したりすることが中心となるため、今回実施した機織り体験は、児童にとって学習効果があったと言える。また、蕨市の伝統文化を知るという観点からも、意義のある体験活動であった。

6. その他の成果・感想・今後の課題など

【はたごっこ】

かつて栄えた蕨綿織物について、広く知識を習得することができたことで、伝統的な機織り技術や裂き織りなどの織物文化を学べただけではなく、「ふるさと蕨を語り誇れるような自信がついた」のではないかと思う。今後も小学校での活動を続けていながら、もっといろいろな人たちに双子織を知ってもらえるような活動を展開していきたい。

【学校教育課】

児童一人一人が体験する時間が短いと感じたので、機織り機の台数を増やしたり、体験の時数を増やしたりするなどして、体験の時間を増やせるとよい。